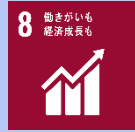


企業のステークホルダー環境の分析に関する研究

研究分野: 経営学、企業と社会、ステークホルダー理論

キーワード: ステークホルダー・マネジメント、現代企業、経営倫理、トレードオフ

貢献できるSDGsの区分:



経営学部 経営学科 准教授 中村 貴治

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/t-nakamura/>

研究概要

米経営者団体のビジネス・ラウンドテーブルが2019年8月に株主第一主義の経営の問題点を指摘し、米企業に全てのステークホルダーへのコミットメントを求める「企業の目的に関する声明」を発表して以降、企業とステークホルダーとの関係、その全体としての調和の実現に、理論・実態の両面における注目が高まっている。

経営学においてステークホルダー理論とは、研究者や経営者が企業とそのステークホルダーとの関係や、その関係がもたらすパフォーマンスを理解するための理論の総称である。しかし、経営におけるステークホルダー間の利害のトレードオフの実態とそれらへの企業による対応、また、トレードオフが経営に引き起こすリスクについては、各論者が個別に言及することはあっても体系的な研究がなされていない。

そこで、本研究では、第一に、経営者による経営環境の認識について、ステークホルダー分析の観点から研究を行う。また、経営者の環境認識、そしてそこにおけるステークホルダー間の利害のトレードオフについて、概念・理論面を中心に研究を行う。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ①企業、自治体等の組織とステークホルダー間の関係性、マッピングの協力
- ②ステークホルダー理論、ステークホルダー・マネジメント、ステークホルダー資本主義に関する講習

外部との連携実績等

- ①佐世保商工会議所 産学連携・調査診断事業 平成29年7月～平成30年3月
- ②長崎県立大学 学長プロジェクト研究(共同研究) 地方創生のための長崎県の道の駅の経営向上に関する研究 令和2年3月